

書全典古本日

語物保津宇



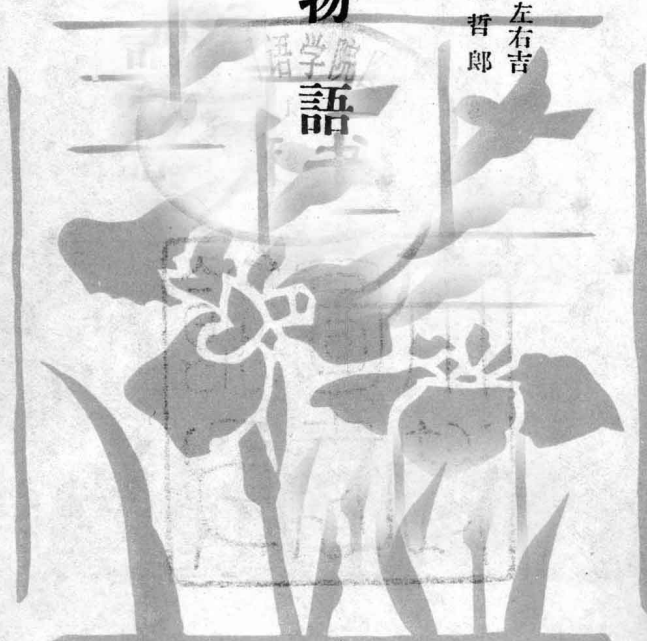
朝日新聞社編刊
日本古典全書

監修

佐佐木信綱 新村 出 津田 左右吉
辻善之助 藤村 作 和辻哲郎

宇津保
物語

校註 宮田 和 一郎





昭和二十四年三月十五日印刷・昭和二十四年
三月三十日發行・朝日新聞社編刊・日本古典
全書「宇津保物語」第二分冊・校註者宮田和
一郎・編集發行者東京都千代田區有樂町二の
三朝日新聞社杉山胤太郎・印刷發行所東京都
千代田區有樂町二の三朝日新聞社・電話丸の
一三二番

定價百六拾圓



目次

口 繪

凡 例

各卷にあらはれる人人

五 梅の花笠

六 吹上(上)

七 祭の使

五

六

七

八 吹上(下)

九 菊の宴

一〇 あて宮

八

九

一〇

本 文

梅の花笠 一名「春日詣」

一 正頼一族春日詣、人人歌よむ、忠こそ來

る

二 正頼忠こそと昔を語る

二

三

三 懸想人らあて宮に文を贈る

四 兼雅桂の新郎に移り住む

五 仲頼勅書を兼雅に傳達す

三〇

三一

吹 上(上)

目 次

三七

祭の使

- | | | |
|----|---------------------------------|---|
| 一 | 種松源涼を奉養す…………… | 三 |
| 二 | 松方紀伊に涼を訪はんことを仲頼に勸む…………… | 四 |
| 三 | 仲頼行正を紀伊國に誘ふ…………… | 四 |
| 四 | 仲頼紀伊に仲忠を誘ふ…………… | 四 |
| 五 | 仲頼紀伊に行くことを妻に語る、妻父母に相談す…………… | 四 |
| 六 | 仲頼・仲忠・行正・松方吹上を訪ふ…………… | 四 |
| 七 | 仲忠琴を涼に贈る、涼琴を彈く、あて宮のことを語る…………… | 四 |
| 八 | 林の院の花見、人人歌よむ…………… | 五 |
| 一 | 祐澄・行正賀茂祭の勅使に立つ、大宮物見に出づ…………… | 六 |
| 二 | 人人歌をあて宮に贈る…………… | 六 |
| 三 | 國國より五月の節供を正頼方に奉る…………… | 六 |
| 四 | 正頼邸の騎射・打毬・競馬…………… | 六 |
| 五 | 朱雀院正頼方に勅使して人人の引出物遣はさる…………… | 六 |
| 九 | 三月十二日渚の院の上巳の祓…………… | 七 |
| 一〇 | 三月廿日藤井の宮の藤の花の宴…………… | 七 |
| 一一 | 仲頼ら歸らんとす…………… | 七 |
| 一二 | 鷹狩、人人歌よむ…………… | 七 |
| 一三 | 三月晦日仲頼ら吹上の宮に春を惜しむ…………… | 七 |
| 一四 | 四月一日送別の宴、仲頼ら歸京す…………… | 七 |
| 一五 | 四月四日歸京、忠保仲頼らを饗す…………… | 七 |
| 一六 | 仲頼ら土産物を所所に贈る…………… | 七 |
| 一七 | 仲頼ら正頼を訪ひ吹上の有様を語る、土産物を所所に贈る…………… | 七 |
| 六 | 季明實忠のために氏頼に婚を求む…………… | 八 |
| 七 | 懸想人らあて宮に歌を贈る…………… | 八 |
| 八 | 六月十二日正頼邸の納涼…………… | 八 |
| 九 | 正頼兼雅の桂の邸にて神樂を行はんとす…………… | 八 |
| 一〇 | 兼雅の桂の家の夏神樂…………… | 八 |
| 一一 | 懸想人ら歌をあて宮に贈る…………… | 八 |
| 一二 | 三春高基宮内の君を招きてあて宮を得ん…………… | 八 |

ことを謀る……………	二〇	一七 藤英正頼に知らる……………	三三
一三 滋野眞菅殿守を招きてあて宮を得んことを謀る……………	二四	一八 懸想人らあて宮に歌を贈る……………	三〇
一四 藤原季英の苦學……………	二六	一九 あて宮月夜に琴彈く、仲忠孫王の君をしてあて宮に歌を贈る……………	二九
一五 正頼郎の七夕……………	二八	二〇 涼・仲澄・實忠・行正らあて宮に歌を贈る……………	三三
一六 學生ら正頼郎にまゐる……………	二九		

吹 上(下)……………

一五

一 仲頼吹上のさまを嵯峨院に奏す、御幸の準備……………	一三	將に任ず……………	一五
二 九月一日嵯峨院吹上に御幸……………	二〇	七 涼三條に移り住む……………	一五
三 九日の宴を催さる……………	二二	八 忠こそ眞言院の阿闍梨になさる、繼母を養ふ……………	一五
四 忠こそ九日の宴に來あはす、涼を伴ひて還御……………	二二	九 忠こそ宮あと君の物怪を祈る、あと君に託して文をあて宮に贈る……………	一五
五 神泉苑の紅葉の賀、仲忠琴彈く……………	二四	一〇 懸想人らあて宮に歌を贈る……………	二〇
六 涼・仲忠琴彈く、奇瑞あり、兩人四位中……………	二五		
菊の宴……………	二六	二 正頼夫妻あて宮の處置を相談す、仁壽殿春宮に奉らんことを勤む……………	二六
一 春宮の殘菊の宴、あて宮を正頼に所望せらる……………	二六		

- | | | |
|----|--|----|
| 三 | 正頼邸の神樂の準備…………… | 一六 |
| 四 | 神樂の日…………… | 一七 |
| 五 | 仲忠切なる心を仲澄に訴ふ…………… | 一八 |
| 六 | 大宮御母嵯峨院太后の六十の賀の準備…………… | 一九 |
| 七 | 懸想人ら歌をあて宮に贈る…………… | 二〇 |
| 八 | 大宮御母後の六十の賀に嵯峨院にまゐる…………… | 二一 |
| 九 | 六十の御賀…………… | 二二 |
| 一〇 | 春宮後の宮と物語らる…………… | 二三 |
| 一一 | 春宮あて宮の入内を大宮に促さる…………… | 二四 |
| 一二 | 後の宮あて宮を春宮に奉るやう大宮に勧めらる…………… | 二五 |
| 一三 | 大宮を始め正頼方に歸る…………… | 二六 |
| 一四 | 春宮あて宮に歌を贈らる…………… | 二七 |
| 一五 | あて宮の入内定まれるを聞き、懸想人ら悲しむ…………… | 二八 |
| 一六 | 藤英宮あと君を介してあて宮に文を贈る…………… | 二九 |
| | あて宮…………… | 三〇 |
| | あて宮春宮に入内のこと決す、實忠・仲澄ら悲しむ…………… | 三一 |
| | 忠こそ歌をあて宮贈る…………… | 三二 |
| | 實忠正頼邸にのみ留まるで妻子の悲歎、長子眞研君病死す…………… | 三三 |
| | 實忠の妻眞砂君を悼むこと切なり…………… | 三四 |
| | 三月上巳の祓に正頼一家難波に遊ぶ…………… | 三五 |
| | 人人祓して歌よむ…………… | 三六 |
| | 春宮・實忠歌をあて宮に贈る…………… | 三七 |
| | 兼雅長谷に參籠して戀を祈る、祐澄を語らふ…………… | 三八 |
| | 懸想人ら歌をあて宮に贈る…………… | 三九 |
| | 實忠兵衛の君をして文をあて宮に贈る、實忠戀病、七大寺比叡などに祈る…………… | 四〇 |
| | 實忠の妻子志賀の麓に隠る、實忠・仲忠偶然その隠家を訪ふ…………… | 四一 |
| | 實忠文をあて宮に贈る…………… | 四二 |

二	入内の準備、仲忠・涼・實忠より贈物す……………	三〇
三	仲澄悲歎し悶絶、あて宮見舞に來る……………	三一
四	實忠も悶絶、涼ら入内の御送りに參る……………	三二
五	あて宮慰めの文を仲澄に贈る、忠こそ加 持す、あて宮入内す……………	三三
六	仲頼出家す……………	三四
七	あて宮時めく、春宮の妃たち、あて宮姪 娠す……………	三五
八	二月庚申にあて宮人人を襲す……………	三六
九	仲忠と行正と仲頼を訪ふ……………	三七
一〇	仲頼歌をあて宮に贈る、返歌あり……………	三八
一一	實忠小野よりあて宮に長歌を贈る……………	三九
一二	仲澄歌をあて宮に贈り返歌を見て悶絶す あて宮悲しむ……………	四〇
一三	眞菅あて宮入内を聞き愁訴し父子流罪に 處せらる……………	四一
一四	三春基遁世す……………	四二
一五	あて宮退出、春宮と歌を贈答す……………	四三
一六	あて宮に若宮誕生、三日の夜の産養……………	四四
一七	昭陽殿の嫉妬……………	四五
一八	五夜七夜の産養……………	四六
一九	あて宮二の宮を生む……………	四七

宇津保物語

宮田和一郎



凡 例

一、本書は宇津保物語の第二分冊である。

二、本書は、慶長十五年三月十四日簡庵主人の奥書ある寫本と文化の補刻板本・國文大觀本・有朋堂文庫本・日本古典全集本とを参照しながら、それらのよきに従つて本文を定めたものである。

三、頭註は本文の語句の右肩に附けた漢數字と照合するやうにした。

四、頭註は、註釋と校異とを混合して施してある。まで——「まうで」とあるのは、本文には「まで」とあるが、一本には「まうで」ともあるといふ意味である。

五、頭註は出来るだけ簡略に従つたので、意を盡くさない點があるかもしれない。しかし、宇津保物語にはまだ纏まつた註釋書がないのであるから、本書は特にその點に鑑み、將來この物語の讀解研究にすこしでも役に立つやうに力めた。

六、本文を適當に區分して段落を設け、句讀點を施し、漢字をあて、假名遣・送假名を統一して綴讀の便をはかつた。

七、畫詞の部分は原本では本文中に續けて書いてあつて、一見區別が明瞭でないが、讀んで見ると見當

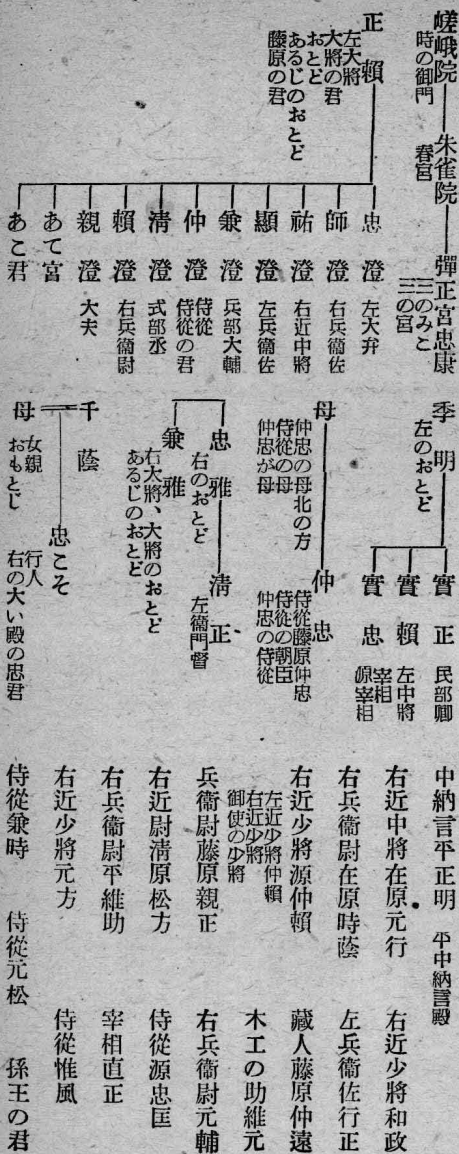
がつくのであるから、【畫詞】として、行を改め、二字下げて本文と區別しておいた。

八、卷の順序は古來異説があつて一定しないので、試みに年立を作つて考へて見た結果、本書の通りに定めたのである。

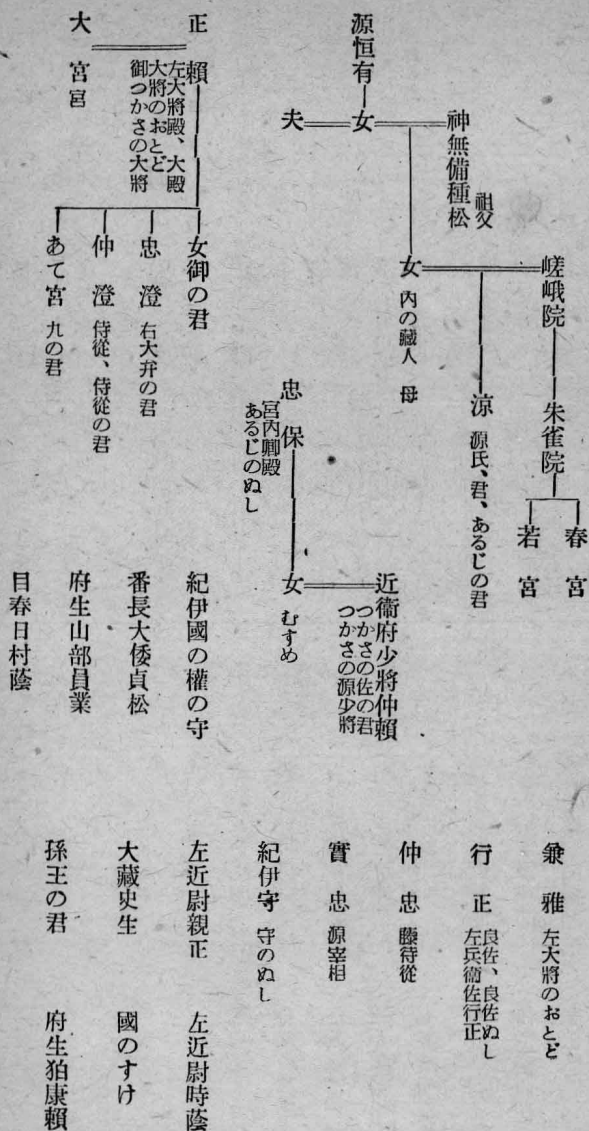
九、本書には、梅の花笠(春日詣)・吹上(上)・祭の使・吹上(下)・菊の宴・あて宮の六卷を収めた。

各卷にあらはれる人人

五、梅の花笠 一名「春日詣」



六、吹上(上)



七、祭の使

嵯峨院 — 朱雀院
中務のみこ — 後の宮
春宮
三のみこ
四のみこ
五のみこ
六のみこ

季明
左大臣
實 實 實
正 正 正
民部卿殿 左衛門督 中將
實 實 實
忠 忠 忠
源室相 源室相 源室相

左近の馬づかさ 左の馬づかさ
右近の馬づかさ 右の馬づかさ
右兵衛尉時蔭 まつりごと人
右近尉親正 まつりごと人

大宮
正頼
左大將のおとど
大將のおとど
おとど
父のおとど
あるじのおとど
仁壽殿 女御の君
忠 澄 左大弁
弁の君
師 澄 兵衛佐
中將君
祐 澄 使の中將
使の君
連 澄 右衛門の佐の君
仲 澄 侍従の君
基 澄 大夫の君
あて宮
清 澄 式部丞

忠 雅 忠 俊
右のおとど 左衛門督
兼 雅 仲 忠
俊蔭女 侍従の君
仲忠が母

三春高基 致仕のおとど
行 正 藏人兵衛佐
良佐、兵衛良佐
涼 紀伊國の吹上の君
紀伊國の源氏
なんかげの左大弁
左右の近衛づかさ
左、右のつかさ
大學勸學院の別當
左の馬寮の檢校
忠 遠 さうとうしき
藤原季英 藤原

大殿の上 あなたの北の方

滋野眞首
滋野の宰相
帥のぬし
和 政 少將ぬし
木工の助
藏 人
帶 刀

各卷にあらはれる人人

民部丞藤原元則

兵部少輔

物のふし

宮内の君

兵衛督

式部丞

右近尉松方

右衛門尉

舍人ども

兵部卿宮

馬の頭

帥の君

右近の藏人

左近中將

下部の人

殿守の御

馬の助

仲頼

中納言の君

左近少將

孫王の君

兵衛の君

左近尉

下部

八、吹 上(下)

嵯峨院

朱雀院

二のみにこ

中務親王

四のみにこ

種松

女

嵯峨院

涼

中將、中將涼、涼の中將
源氏、源氏の君
紀伊國の源氏

正頼

大將殿、左大將
つかさの大將

仲澄 侍從の君

宮あこ君 あこ宮

式部卿親王

實忠 源宰相

兵部卿親王

彌行

兵部卿宮

藤英

仲頼 源少將

行正 兵衛佐

正明 平中納言

忠經 左大臣
北の方 かつら
千蔭 右大臣

北の方 忠こそ
行人、阿闍梨
眞言院の阿闍梨

俊蔭女
三條の北の方

兼雅 右大將殿
右大將のぬし
忠雅 右のおとど

仲忠 中將仲忠
頭中將

九、菊の宴

